

■ 書 評 ■

日本社会科教育学会編『社会科における
公民的資質の形成 - 公民教育の理論と
実践 - 』（東洋館，昭和59年）

谷 川 彰 英

公民的資質の育成はわが国の社会科の究極的な目標となっている。したがって「公民的資質」は何かについては、社会科関係者のなかでもっと活発に議論されるべき課題であった。ところが実際には、公民教育を正面にすえて研究する人の少なかったこともあって、この問題は十分な深まりを見せていない。

このたび日本社会科教育学会編として上梓された『社会科における公民的資質の形成』は、このような状況を切り開く画期的な力作である。考えてみれば、戦後間もなくの二、三年を除けば、公民教育について本格的に論じられるようになったのは1970年以降である。それから今日に至るまで、公民教育については少なからぬ研究物が出されてきたが、その全体について多様な角度から検討した本はなかったのである。本書は、これまでの公民教育研究の集約であると同時に、今後の公民教育の研究と実践への貴重な指針となるであろう。その意味で歴史的である。

本書の企画編集は大森照夫（東京女子体育大学）・梶哲夫（筑波大学）・阪上順夫（東京学芸大学）・三浦軍三（東京学芸大学）・森茂岳雄（東京学芸大学）の諸氏によって進められ、40名に近い人々によって本書は執筆された。

内容は次のようになっている。

I 公民教育の原理

1. 公民教育と社会科教育
2. 公民教育の意義と役割
3. 公民的資質とは何か
4. 公民教育と価値教育
5. 公民教育と生涯教育
6. 公民教育と教師

II 公民教育の歴史と現状

1. 日本の公民教育の歴史
2. 外国の公民教育

III 公民教育の展開

1. 幼稚園・保育所における社会性の育成
2. 小学校における公民教育
3. 中学校における公民教育
4. 高等学校における公民教育

IV 現代社会における公民教育の課題

1. 政治的社会科と公民教育
2. 経済的社会科と公民教育
3. 異文化理解と国際理解教育
4. 平和教育
5. 人権教育
6. 環境教育
7. 情報化社会と公民教育

原理に歴史、展開、課題と続いて公民教育の全体が見渡せるようになっており、編集としても優れているといえよう。とくに第II章で、これまでほとんど取り上げることのなかったソ連や中国、韓国を扱っている点、さらには、第IV章で社会化、異文化理解、人権教育等を意欲的に扱っている点は本書の特色といえよう。

また本書の冒頭で梶哲夫氏が「戦後のわが国における公民教育については、社会科教育との関連をぬきにしてこれを論究することは不可能といってよい。今日でこそ、公民教育は学校教育のみでなく、広く社会教育そして家庭教育等から考察し、さらに生涯教育の観点から考究することが必要でありまた当然のこととされているが、敗戦直後においては、なんといいてもまず学校教育において考えるというのがその第一歩であった」と書かれているが、この指摘は重要である。私たちはとかく公民教育を狭く社会科教育の一部と見なす傾向があるが、公民的資質の育成という仕事はもっと広い眼で見なければいけないのである。

その他、第III章の「公民教育の展開」においても、第一線で活躍している研究者、実践者の論述で興味深いのが、ここで全体を通じて気づいた点を二点申し述べておきたい。これらは同時に今後の課題ともいえよう。

その一つは、公民的資質の形成の問題を今日の社会科教育のかかえている諸問題との関連でもう少し深めていただきたかったことである。たとえば、暗記物として人気のない社会科をどのように改造したらより良い公民的資質の形成が図れるか、というような問題である。

二つ目は、道徳教育との関連をもっと論じていただきたかったことである。

しかし、これらはあくまでも要望であって、学会の編集となるとさまざまな立場の人々を代表するという性格も加わってくるので困難であるかもしれない。

いずれにしても、社会科教育の関係者にとっては必携の書物である。広く良き読者にめぐり会えることを期待する。

(千葉大学教育学部)